

昨年、国際ロータリー(RI) 2760地区(愛知) 2018-19年度ガバナーに、豊橋ロータリークラブの村井總一郎さん(ビオック会長)が就いた。「あなたの街でロータリーを」を掲げ、地区内を駆け回る村井さんに、世界と日本のロータリー一感や地区の表情、取り組みなど、任期半ばでのガバナーの思いを聞いた。

(聞き手) 白井収・東海日日新聞社社長

# 奉仕と理念 本質の向上を 充実した楽しい例会目指す



→WFFではジュディ・オングさんと募金活動を行った

「ガバナーの立場から今のロータリーはどう見えるか？」  
 村井 世界が考えるロータリーと日本の考え方が乖離(かいり)している。日本では経営者の会員が多く、職業奉仕を織り込んで一経営に役立つ。人脈作りにもなる。ステータスにもなる」と言って勧誘してきた。入りたくても入れないところだったが、世界では一般人から学生にまで声をかけ、会費や入会条件を下げて仲間を増やそうという流れだ。

「昔はアメリカでもステータスだった。村井 日本でのステータスとは違いますが、人格的に秀でた人の集まりだった。それが誰でも入れるようになり、「寄付と人を集める」

「困っている人を助けよう」という考えに変わってきた。職業奉仕の心を大切にしている。日本は、この変化に戸惑っている。

「アメリカで行われたガバナー研修でも、奉仕の心や精神的な話はなく、どうすれば会員や寄付を多く集められるか、公共イメージをどう向上させるかを討議するだけ。日本に帰ると「ロータリーは単なる寄附団体ではない」と言っている。世界との違いを調整しなければならぬ。」

「会員を増やせとは言わないですね？」  
 村井 無理に会員を増やしても組織が弱体化する。ロータリーを理解する研修体制を作って、クラブがしっかりしないといけない。クラブを活性化し、充実した楽しい例会を開く。奉仕の理念を学ぶこと、本質的なことを向上させることが大切。無理して人やお金を集めるより、豊橋でどんな活動ができるかを考えたい。

「歴代のガバナーは村井さんの考え方を理解してくれる？」  
 村井 「こは」「ガバナーのやりたいことをやらない」という自由な地区。世界の変化を着地させるには、クラブが強くないと世界の話しても仕方ない。僕の年度ではまず足もとを固めたい。交流して楽しくなれば、人は寄って来るし誘いやすくなる。人を集める前に「例会に来てよかった」というものにならないと。」

「今年度前半で印象に残ったことは？」  
 村井 1つは85の全クラブを訪問したこと。会長から悩みや現状を直接聞き、卓話の中で会長の思いを僕の言葉で説明できたのがよかった。

2つ目は「ワールドフードすふれ愛フェスタ(WFF)」。2日間で7万人が来てくれた。ジュディ・オングさんがボリオ大使として募金活動してくれたことで、来てくれた人は「ロータリーはすごい」と思ってくれたのではないかと思う。

## 世界と日本 考え方の乖離の中で 理屈だけの団体にならないために

3つ目は蒲郡で開いた地区大会。今までは名古屋で開かれていたが、今年度は、ガバナーもホストクラブも東三河だった。名古屋でならホテルのスタッフが手伝ってくれるが、蒲郡は市民文化会館での手作り大会だった。遠くて不便なところというイメージがあった。人が来てくれるか心配だったが、意外と多くの人に来て盛況だった。たくさんの人から「思いやりのある、いい大会だった」と言われた。

「後半は？」  
 村井 分区内交流やクラブがどれだけ充実したかを見て回りたい。一つ一つのクラブと委員会活動にガバナーのイデオロギを徹底させて成果を出したい。いろんな会員やクラブがあつていいと思うが、それぞれの活力をアップさせる。会員増とか寄付金はその結果としてついてくる。今年でなくても将来芽が出るだろう。」

この地区は名古屋を中心にとまわっている。クラブとのコミュニケーションはとりやすかった。  
 「名古屋と東三河では距離感があるように感じるが。」  
 村井 「豊橋からわざわざ遠い所ご苦労様」とよく言われた。やはり、名古屋を中心にしないとうまくいかない。直前ガバナーが名古屋の方なので、お願いして名古屋の人と交流させてもらった。

「名古屋の会合への東三河からの出席率が上がるか。」  
 村井 昔のガバナーは上から「こうだ」と言っていたが、今は下から支えるもの。ただ理想形をもっていないとクラブは迷う。奉仕の理念をしっかり身につけていないとお世話はできない。  
 日本人は奉仕の理念が好きで、納得しないときにくい。「思いやりの心を持つだけ」ではなく、手を差し伸べて「結ぶもの」と卓話で訴えた。そうでないと頭でっかちで理屈だけの団体になってしまう。RIの奉仕の実践の考えとすり合わせないといけないことは、分かってくれたと思う。



→地区大会で講演した作家の浅田次郎さんと

悪いので、三河での行事を増やしたい。東三河から情報を発信し、名古屋から来てもらうのがいい。  
 「今後ロータリーはどうなるか？」  
 村井 RI会長のビジョン声明に連続性が出てきた。以前は会長が変わると全然違うことを言っていたが、一つの方向性は出てくるだろう。ただ、それをどう日本的にとらえるか。ベテランの会員に理解してもらったのは大変かもしれない。

「ガバナーとは？」  
 村井 昔のガバナーは上から「こうだ」と言っていたが、今は下から支えるもの。ただ理想形をもっていないとクラブは迷う。奉仕の理念をしっかり身につけていないとお世話はできない。  
 日本人は奉仕の理念が好きで、納得しないときにくい。「思いやりの心を持つだけ」ではなく、手を差し伸べて「結ぶもの」と卓話で訴えた。そうでないと頭でっかちで理屈だけの団体になってしまう。RIの奉仕の実践の考えとすり合わせないといけないことは、分かってくれたと思う。

RI2760地区ガバナーの村井總一郎さん

